



多職種による連携 地域ケアネットワーク

佐久地域で医療や介護・福祉サービスの「顔の見える多職種連携」を創っていくことを目指して、地域ケアネットワーク佐久（SCCNet）が立ち上がりました。まだまだ始まったばかりの取り組みですが、現状と今後の活動についてご紹介させていただきます。

佐久総合病院 地域ケア科 小松 裕和 医師

わたしたちの暮らしている佐久地域は世界でも長寿地域ですが、高齢者が多いということは医療や介護・福祉サービスが必要とする方が多いということでもあります。また、佐久市では年間1000人程度お亡くなりになられていますが、これからの20～30年で1500人程度になるようです。

そして、病気の予防や治療は当然大切なことですが、慢性疾病を抱えながらも地域で安心して最期まで暮らすためには、「医療や介護・福祉サービスのより良い連携」が役立つと言われていきます。これは、地域の多職種が連携を取り合い、一つのチームとなって初めてより良いケアが地域で提供できるからです。そこで、2009年8月にこのより良い連携創りを目指して地域ケアネットワーク佐久（SCCNet）が立ち上がりました。

地域ケアネットワーク佐久（SCCNet）

SCCNetは各種団体の理解を得て、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、栄養士、ケアマネージャー、ヘルパー、ソーシャルワーカー、施設スタッフ、行政など佐久地域の医療や介護・福祉サービスに関わる多職種が参加しています。これまでも状態の変化に応じて多職種が集まってケアカンファレンスを行ってきましたが、なかなか複数の事業者間でチームとなって連携をとっていくことは難しいものでした。SCCNetでは勉強会や



情報交換を通じて、佐久地域に多職種の顔の見えるつながりを創っていく、多くの方の役に立てるネットワークに成長し

ていきたいと考えています。

特徴としては、地域ではどの職種も対等であるという考えのもと、勉強会ではお互いに「さん」付けで呼び合うこととしています。当たり前ですが、地域での生活において医療が一番ではないですし、必ず優先されるものでもありません。実際に地域の現場では介護・福祉サービスのスタッフの自由な発想で、患者さんや利用者さんは本当に生き生きと過ごされずし、医療が不必要に介入してしまうことがあります。

佐久医師会のスタンスとしては、「何かあったときのバックアップは主治医が引き受けるから、地域で安心して暮らすために良いと思うことは、介護・福祉サービスの現場でどんな進めてください」というものです。



いろいろな思い

「地域で安心して暮らせる」という言葉は決して自宅での療養のみを表しているものではありません。自宅、ケア付きの小規模施設、特養や老健などの大規模施設など様々な生活の場所がありますし、それが良い悪いということもありません。生活の場所に問わず、地域で安心して暮らせることを支援できる

ネットワークを目指しています。

また、SCCNetの取り組みは介護保険の利用者が対象になることが多いですが、「顔の見える多職種連携のネットワーク」は若い方で精神障害や身体障害をもって生活される方、自宅や施設で療養される子供さんにも役に立つものです。より良いネットワークになるよう、既存の地域での取り組みからも経験や知識を教えていただきたいと考えています。

最後に

これから大切になってくることは、医療や介護・福祉サービスに関わるスタッフと地域みなさまとの意見交換ができる機会を創っていくことではないかと考えています。なかなかそのような機会を創ることは難しいですが、専門職の一人相撲にならないよう意見交換ができる仕組みを検討していきます。

SCCNetはまだまだ始まったばかりですので、肩ひじ張らずにできることから取り組んでいきます。地域のみならずみなさまからも様々なご意見をいただければ幸いです。

